column

くらしの中の
SDGs
Vol.11

おせっかいは地域を救う!?

～高知市型共生社会の実現に向けて～

「おせっかい」について、皆さんはどう思いますか。

人と人との関係が希薄化しているといわれる現代社会では、「面倒くさい」と感じる方が多いのかもしれません。ただ、人口減少・少子高齢化が進む中、地域では困り事を抱えている人が増えています。

例えば、一人暮らしの高齢者の「高い場所の電球交換ができない」や「足が痛くてごみ出しができない」といった困り事。一昔前ならば家族や近所同士で助け合って解決していたことでも、今の社会の中ではなかなか解決できないといったことがあります。また、子育て世帯の孤立など、社会情勢の変化は、さまざまな面で多くの地域課題を生んでいます。

市はこのような課題解決に取り組んでいるものの、行政だけで解決することは難しいため、地域の皆さんの「支え合い（＝おせっかい）」はとても大きな存在です。

「おせっかい」には、少しネガティブなイメージもあるかもしれません。しかし、人と人がつながること・支え合うことは、どんな時代でも大切なことではないでしょうか。

一方で、今の時代は人々の価値観や生き方、ライフスタイルが多様化しています。相手の立場や気持ちに寄り添った「ちょうどいいおせっかい」を考える思いやりも必要です。

みんなにとって居心地のいい、みんながみんなを包み込むようなつながりのある「高知市型共生社会」をめざしていくために、自分や相手にとって「ちょうどいい」現代版の「おせっかい」を一緒に考えていきましょう。

ポスターを掲示していただける店舗等を募集中。詳しくはこちら▶

【問い合わせ】地域共生社会推進課 ☎821-6513

こうちミュージアムネットワーク〈リレーコラム〉

歴史万華鏡 ―unravel the history of Kochi―

〈135回〉

辻売りの習俗

県立図書館 司書 古谷 留美

さまざまな人間関係の中で、親子関係は強いつながりを持つものと考えられるが、日本では実の親子以外に擬制的な親子関係を結ぶ仮親の習俗が存在してきた。取上げ親、名付け親、烏帽子親など、その多くは実の親子以上に強いつながりを持つといわれている。

高知県では、子どもが病気になったときや生まれつき体が弱い場合、辻に子どもを連れて行き、最初（地域によっては三番目）に通り掛かった人に仮親になってもらう「辻売り」と呼ばれる習俗が存在した。病気の子どもの代わりに辻に子どもの着物を持って行くこともあった。名前を付け替え、呼び名として使われる。仮親と子の関係は一生続き、子は仮親に盆や暮、正月などにお土産を持って挨拶に行くという。

辻売りがいつ頃から行われていたか確かではないが、江戸時代の中期には浸透していたようで、当時の日記にその様子が記されている。高知城下の豪商才谷屋に由来する『順水家記』の享保十七（一七三二）年に「三月十八日、家君翁赤岡村弘田氏ヲ訪ふため卯刻自宅ヲ発シ給フ処、本町壱丁目ノ角ニ於て宮崎久兵衛一男子ヲ辻売にするに逢、翁に約ヲ願ヒ即之ヲ祝ヒ、名ヲ八三郎ト称ス」（県立図書館蔵）と記されている。たまたま出くわした見も知らずの人の仮親になるのであるから、この風習が広く知られ、行われていたといえるだろう。

また、神田村（現高知市神田）の弘間家には次のような話が伝わっている。「安政五（一八五八）年頃、神田村高座の里に銀助、別名熊次という貧しい百姓がいた。銀助八十余歳、浦戸の夜釣りの帰りに、散田という現在の三翠園界隈の辻に差しかかった時、不意に暗闇から三葉の提灯が浮び上る。同行の知友たちは闇の中に逃げ去ったが、取り残された銀助は山内幼君の辻売りを申しつけられる。それは西御屋敷の若君で、病弱であったが、熊次の『熊』の一字をとって名を改め、明治末年まで長生きしたという。銀助は弘間の名字を賜り足軽に抜擢された。」（『稿本鴨田地区史　実録編』より要約）

伝承ではあるが、身分を超えて親子関係が結ばれたと語られているのは興味深い。いつの時代も子の幸せを願う思いは変わらないということであろうか。

才谷屋文書の日記類

撮りだちトピックス photo News

まちの出来事を写真でお届け

2023
12.1〔金〕
▼
12.31〔日〕

詳しくはFacebookで♪

12月10日〔日〕 4年ぶりの郷土演芸大会

郷土演芸大会は、市内各地域の公民館などで練習を重ねる皆さんの成果を発表する晴れ舞台。郷土の伝統芸能など多彩な演目に大きな拍手が送られました。

12月15日〔金〕 城西中学校で動物愛護講演会

高知市出身の桑原みずきさんが、保護犬だった愛犬2匹と登場。桑原さんは、「飼わない選択肢も大事。飼うなら最後まで育てる覚悟を持って」と話しました。

12月15日〔金〕 五輪日本代表選手とメダリストが市長を表敬訪問

パリ五輪柔道の日本代表村尾三四郎選手や、2000年シドニー五輪金メダリストの井上康生さんが表敬訪問。剣道7段の市長と武道の話題で盛り上がりました。

12月16日〔土〕 市民ミュージカル11年ぶりに上演

演技経験や障がいの有無に関わらず、7歳から80歳までの90人が出演した「Gift of Life（ギフト オブ ライフ）～にぎやかな植物園」は、多くの観客を魅了しました。

12月17日〔日〕 児童福祉施設にサンタさんがやってきた

ケーキやプレゼントを受け取った子どもたちは「どこから来たの?」「普段は何をしているの?」と尋ねるなど、楽しい時間を過ごしました。

12月31日〔日〕 大みそかの日曜市

大みそかも開催された日曜市。出店者は普段の半数ほどでしたが、年末年始の食材などを買い求める地元の方や観光客で賑わいました。

市役所の推しゴト！ Work Of Kochi City

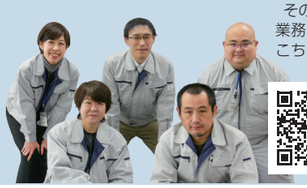
市役所のお仕事を紹介します

市場課 編

■こんな仕事をしている課です

- 市場施設の管理・運営
- 業者間取引の指導・監督
- 市場の活性化

その他の業務内容はこちらから▼


▲市場課の皆さん

ご存じですか？ 卸売市場のせり見学

全国各地から集められた商品の数々や卸売場に響き渡る威勢のよい掛け声。活気あふれる卸売市場のせりを見学しませんか。

■青果部門のせり見学を受け付けています

買受人たちの真剣な表情やせり人の独特な節回しによる呼び上げなど、私たちの豊かな食を支える関係者の奮闘の様子をぜひご覧ください。終了後のお買い物巡りやお食事も楽しみの一つですね。見学のお申し込みは、希望日から土・日曜日、祝日を除く3日前までに、市場課HPにある見学申込書をメールまたはFAXで。

市場見学について詳しくはこちら▶

▲青果部門のせりは7時から。早起きして、ぜひご見学ください。

【問い合わせ】市場課☎883-1171